

# 新羅と倭の交流

今回、機会があつて韓国南東部の浦項市を訪問した。当地は世界第三位の製鉄会社「ポスコ」の企業城下町として繁栄しているが、反面かつての日本人街の復元整備に力を入れ、日韓交流の新しい観光資源としての活用に取り組んでいることでも内外で注目され始めている街でもある。

一方古代史的観点からすれば『三国遺事』にも記述がある「延鳥郎・細鳥女」の伝承地でもある。現在でもこの地には日月池とか、迎日県、迎日湾といったこの説話に関連する地名が幾つか現存している。

この説話は日本に渡った夫の後を追つて妻が渡日し、日本で王と王妃になり帰国を望まぬことや、二人が去つたこの地は日や月の精を失い暗闇の世となり、再び日を取り戻す迄の話は『記・紀』にみられる神話との共通点が多く、とりわけ「天之日矛」の伝承と類似している点にも注目したい。

(会員) 山端 研三

この日韓両国に伝承された新羅の地と日本との交流の話は後世の我々に何を伝えようとしているのであろうか？

一寸考えさせられる旅であつた。そして深入りして行くことの発端の旅でもあつた。



延鳥郎・細鳥女 像

今回の旅行で浦項市の市長と夕食を共にした折り、同市長の口から「古事記の天之日矛…」が出たのは一寸驚き、感動らしきものさえ感じました。

.....  
**螢池の遺跡を当会ホームページで紹介しています**

旧螢池公民館が麻田藩陣屋跡に建てられていたことは、館の前に大きな石碑が建っていて、よくご存知のことと思います。

一方、モノレール建設時に発見された螢池東遺跡の大型建物遺構については、これが大阪・法円坂遺跡や和歌山・鳴滝遺跡の大型建物よりもさらに大きい建物遺構であるにもかかわらず、現在はどこにも、何の表示もされておらず、余り知られていないようです。

『つどい』第一五六号(二〇〇一年五月)にはこれら二つの遺跡について次のような講演要旨が掲載されています。

